

2019年度

カリキュラム編成書

建築大工技能科

東北電子専門学校

学科概要書

作成日:2019年 4月 1日

作成者:伊藤 功啓

学科名	建築大工技能科
コース名	
所属分野	テクノロジー

(各行は適宜増減のこと)

人材ニーズ	建築の現場を担う技能職は高齢化が進み、将来を担う若手が大変不足している。大工技術のみならず
	住宅に関する全般的な技術や知識をもった技能職、設計士に対するニーズが高まっている。
	また、一生に一度の、夢を実現させる仕事であり、施主の家族を思いやる人間性も欠かせない。
	この技術に裏打ちされた確かな人間性を持ち、信頼される技術者が求められている。
育成人材像	木造住宅の建築現場で、大工技能職、またはその他の技能職として技能労働が行える。
	その際、設計図書に記される設計者の意図を読み取ることができる。
	管理建築士の指示の下、図面作成や現場での検査、調整業務を行える。
主な教育内容 と目標	大工技術の基本である「道具」・「規矩術」・「工作法」を模擬家屋作成の実習を通して修得する。
	建築実務の基礎として建築図面の理解と、手書きとCADによる図面作成方法を修得する。
	木造2階建までの専用住宅の設計手法と設計図の作成手法を修得する。
	建築計画の基礎と、住宅建築の特徴を理解し、設計意図を理解できるようになる。
	木造建築物の構造・造作の詳細を理解し、設計意図を理解できるようになる。
	木造建築物の施工方法と、安全衛生に関する知識を修得する。
	建築基準法について、法律の考え方や基準の内容を理解する。
目標資格	二級建築士、木造建築士
	2級建築施工管理技術検定
	建築大工技能士、木建作業主任者
目指す職種	大工技能職
	建築関連技能職
	建築施工管理技術者
業界や外部 専門家との 連携体制	【現状】
	若手大工技術者の育成のため設立された「NOP法人匠の右腕」より講師の派遣を受け技能実習を行っている。
	【今後】
	業界理解のため現場見学、ショールームの見学を予定している。
特長	現役の棟梁の指導の元、実物の材料を使い、実寸で模擬家屋を作成しながら実践的に大工技能が修得
	することが可能。技能に加え設計に必要な基礎知識も学び住宅設計に必要な二級建築士試験は
	実務経験1年で受験可能な国土交通大臣指定科目履修学科。
その他	

科目関連図

作成日：2019年 4月 1日

学科名	建築大工技能科
コース名	

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
一般科目	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;">一般常識</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px;">就職対策Ⅰ</div>		<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px;">就職対策Ⅱ</div>					
専門科目	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;">建築技能実習Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;">建築基礎製図</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;">コンピュータ基礎</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;">建築計画</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px;">建築一般構造</div>		<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;">建築技能実習Ⅱ</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;">建築設計製図</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;">建築CAD製図</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;">住宅計画</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;">建築法規</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; margin-bottom: 5px;">建築材料</div> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px;">建築生産</div>					

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	建築大工技能科				
コ ー ス 名					
科 目 名	一般常識			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	近藤 孝之、岡崎 和行 大坂 祥郎、升澤 満夫	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	<p>建築学や機械工学の理論計算を学習するために、必要な数学の基礎知識を復習する。数学は専門課程科目を学ぶために最低限必要な基礎学力である。専門科目を学ぶためのツールと言って過言ではない。専門科目を学ぶ時だけでなく、就職試験においても数学が外されることはまず無い。したがって、好き嫌い、得手不得手に関わらず、数学の基礎力をつけておくことが必要である。高校で学んできた数学の単元から、特に工学の分野で要求される単元を取り上げて学ぶ。範囲は見直しながら解説するので高校時とは違った理解が得られるであろう。高校では学ばなかったが、これから専門科目で必要となる基礎項目を追加する。</p>				
到 達 目 標	<p>習熟度に応じたクラスを編成し、学習効果を高め就職活動時の一般常識試験に対応できる能力を身につける。</p> <p style="text-align: center;">*別紙 学習目標(別紙①)</p>				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	計	0	<p style="text-align: center;">*別紙 就職対策 I (別紙②)</p>		
使 用 教 材	<p>(前期)「専門学校生のための就職筆記試験対策問題集」(ウイネット) (後期)「聞いたらわかった SPI」(一ツ橋書店)</p>				
履 修 上 の 意	<ul style="list-style-type: none"> ・コマごとの学習目標を掴み、時間内に理解できるようにする。 ・理解できなかった所や復習のため、eラーニングを活用し理解度を高める。 ・ノートをきちんと取り、復習や予習に活かす。 ・以上でも解らなかつた所は、休み時間や放課後、先生に聞き理解できるようにする。 ・(卒業前学年は)履歴書やエントリーシートの書き方を覚える。 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・実力試験の成績(年4回実施) ・授業に取り組む姿勢 などを総合的に評価する。 				

就 職 対 策 I

作成日 : 2019年4月1日

< 前 期 >

授業	第1章 国語	第3章 社会	第2章 数学
	開始10分間で問題集を学習・確認		後半60分間で講義・演習
1	授業の進め方、実力テストの解答・解説		
2	Exercise 1・2 漢字の読み(1)/(2)	Exercise 1/2 日本の地理(1)/日本の地理(2)	Exercise 1 式と計算(1)
3	Exercise 3/4 漢字の読み(3)/書き取り(1)	Exercise 3/4 日本の地理(3)/世界地理(1)	Exercise 2 式と計算(2)
4	Exercise 5/6 漢字の書き取り(2)/同音異義語(1)	Exercise 5/6 世界地理(2)/世界の地理(3)	Exercise 3 速さの基礎
5	Exercise 7/8 同音異義語(2)/(3)	Exercise 7/8 日本史(1)/日本史(2)	Exercise 4 旅人算
6	Exercise 9 同訓異字	Exercise 9 日本史(3) 近現代史	Exercise 5 通過算
7	Exercise 10/11 語句の意味・関連(1)/(2)	Exercise 10 世界史(1) 近代以前の西洋史	Exercise 6 流水算
8	Exercise 12 同意語・類義語	Exercise 11 世界史(2) 近代以前の東洋史	Exercise 7 割合の基礎
9	Exercise 13 反対語(対義語)	Exercise 12 世界史(3) 近代史	Exercise 8 濃度
10	Exercise 14 四字熟語(1)書き取り、文字補充	Exercise 13 政治経済(1) 日本国憲法	Exercise 9 損益算
11	Exercise 15 四字熟語(2)選択	Exercise 14 政治経済(2) 三権分立	Exercise 10 仕事算
12	Exercise 16/17 ことわざ(1)/(2)	Exercise 15 政治経済(3) 内閣と裁判所	Exercise 11 虫食い算
13	Exercise 18 慣用句・故事成語	Exercise 16 政治経済(4) 経済の仕組みと～	Exercise 12 順列・確率
14	Exercise 19 敬語	Exercise 17 政治経済(5) 景気の循環と～	Exercise 13 集合
15	Exercise 20 適語補充	Exercise 18 現代社会 社会保障制度	Exercise 14 推理
16	Exercise 21 文章の並び替え・文章整序	Exercise 19 日本・世界の思想・宗教	Exercise 15 図形と角度
17	Exercise 22 文章読解	Exercise 20 日本・世界の芸術家	Exercise 16 面積・体積
18	(予備)	(予備)	Exercise 17 展開図

< 後 期 >

授業	言語分野	非言語分野
	開始10分間で問題集を自習	後半60分間で講義
1	SPI2の概要	1. 命題
2	1. 同意語	4. 位置と方角
3	2. 反意語	7. 年齢算
4	3. 用途	8. 植木算
5	4. 行為	9. 鶴亀算
6	5. 包含	12. 水槽算
7	6. 原料	17. 代金の精算
8	7. ことわざ・慣用句	20. 数列
9	8. 敬語	21. N進数
10	9. 語句の意味	22. 図形の証明
11	10. 多義語	24. 物の流れと比率
12	11. 文法	25. ブラックボックス
13	12. 空欄補充	26. フローチャート
14	13. 文章整序	27. 図表の読み取り
15	14. 長文読解	28. てこ・モーメント
16		29. 滑車
17		30. 物体の運動
18		31. 電気
19		32. グラフの領域
20		33. 新傾向問題

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	建築大工技能科				
コ ー ス 名					
科 目 名	就職対策 I			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	伊藤 功啓	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	<p>本校は職業人育成のため、実務教育のみならず、人間教育にも力を注いでいる。特に人間性育成の面では、入学直後からのあいさつ運動に象徴されるように、コミュニケーション能力の向上を意識した教育を行っている。「就職対策 I」では、あいさつ以外にもビジネスの現場で重要とされる、「立ち居振る舞い」、「言葉遣い」、「電話対応」など、社会人として身につけておきたいマナーをDVD教材で学び、さらにロールプレイングで実践をとおして定着させることを目的とする。</p>				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナー <ul style="list-style-type: none"> ・職業意識、就業意識を身につける ・立ち居振る舞いなどの基本動作やマナー、社会人としての正しい言葉遣いを身につける ・面接対策 <ul style="list-style-type: none"> ・面接の目的を知り、自己分析を通して己を知るにより「何ができるのか」「何がしたいのか」を見つける ・適切な自己PR・志望動機・エントリーシート・履歴書を作成できるようになる ・適切な企業訪問ができ、面接試験で自分をアピールできるようになる ・職業理解 <ul style="list-style-type: none"> ・各自の就職活動において、進むべき道を自ら選択できるようになる 				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		1	・オリエンテーション		
		3	・社会人になるには		
		3	・基本動作		
		3	・面接の目的		
		9	・自己分析		
		3	・自己PR作成		
		3	・志望動機作成		
		4	・エントリーシート、履歴書作成		
		2	・企業訪問		
		2	・面接試験		
		5	・職業理解 演習		
	計	38			
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・面接対策&ビジネスマナー + DVD ・自己分析ワークシート ・職業紹介DVD 				
履 修 上 の 意	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションでは、積極的に自分の意見を述べること ・就職活動は自分自身が自分のために行う活動であり、自主的にそして積極的に学ぶこと 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験(一般常識実力テスト):50% ・自己分析ワークシートなどの課題提出物:30% ・グループワークなどへの取り組み姿勢・平常点:20% 等により総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	建築大工技能科				
コ ー ス 名					
科 目 名	就職対策Ⅱ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	伊藤 功啓	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がどのような仕事をしたいのか、どのような業種に進みたいのか、などについて絞込みを行う。 ・希望する企業から内定を獲得するために、より実践的に、就職試験に即した内容について学習する。 ・社会人として身につけておきたいコミュニケーション能力、マナー、ルール、一般常識等について学習する。 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の就職対策Ⅰ、そして就職対策Ⅱの授業内容について理解・実践し、就職活動及び就職試験に十分生かし、希望する企業から内定を獲得する。 				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	・就職対策Ⅰが履修済みであること(1年次)。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		1	・オリエンテーション		
		19	・就職センターを活用しての情報収集や受験企業の選定等や担当者との面談		
		3	・一般常識問題の練習		
		3	・履歴書、エントリーシート等の作成練習		
		3	・模擬面接などを通しての面接練習		
		3	・就職活動における言葉遣いや態度、基本動作等についての実践練習		
		3	・グループディスカッション		
		3	・個別面談		
	計	38			
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・面接対策&ビジネスマナー + DVD ・自己分析ワークシート ・職業紹介DVD 				
履 修 上 の 意 注	・就職活動は自分自身のために行う活動である。自主的かつ積極的に行動すること。				
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題内容・提出状況:80% ・就職活動・授業への取り組み姿勢・平常点:20% 等により総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	建築大工技能科				
コ ー ス 名					
科 目 名	建築技能実習 I (企業連携科目)			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	8	総授業コマ数	304	単 位 数	16
担 当 教 員	高橋 渉 菅原 富士夫	実 務 経 験	工務店にて、在来木造建築物の大工工事を経験。現在は社長として工務店を経営する傍ら、NPO法人で大工塾を開催している。多くの建築物を工事した経験を活かし、実践的な教育を行う。知識や技能の指導と教育を行っている。		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・大工技術の基本である「道具」・「規矩術」・「工作法」を模擬家屋作成の実習を通して修得することを目的とする。 ・模擬家屋は木造2階建て切妻と寄棟の屋根、大壁造の内装で作成する。 ・実習を通して、木造建築物の構造、施工方法、構造関連法規を理解する。 ・実習を通して、高所作業に伴う安全な作業と足場解体撤去作業を理解し、作業中の安全について理解する。 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の名前を覚え、使えるようになる。 ・木工手道具の刃研ぎや仕込みの方法を理解する。 ・図面の見方を覚え、板図尺竿を作り、墨付けをできるようになる。 ・構造材を木工手道具を使用して手刻み加工ができるようになる。 ・建方の手順を理解し、高所での安全な作業が行えるようになる。 ・建築金物、ビス、釘等の仕様を理解し、構造耐力上安全な構造物の工作ができるようになる。 ・建具取付工事、断熱気密工事、大壁造の内装工事、壁装クロス工事、解体工事ができるようになる。 				
目 標 資 格	木建作業主任者				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	50 2 20 25 16 15 4 12 8	構造軸組(柱・梁・土台)の墨付け、刻み 高所作業の安全講習 (企業連携、(株)大和通商) 構造軸組(柱・梁・土台)の建て方 外部大工工事(間柱、筋違、サッシ、外部合板、防水シート、軒天仕上げ) 内部大工工事(天井、壁、断熱工事、造作工事) 内部仕上げ工事(窓、入り口枠、玄関框、フロア張り、壁、巾木、廻り縁仕上げ) クロス張り講習 (企業連携、(有)栗駒建業) 解体工事 仮設足場の設置 (企業連携、フットゲート株式会社)			
計	152				
使 用 教 材	木工技術を学ぶ I、II (市谷出版社)				
履 修 上 の 意 注	電動工具や木工機械は、一瞬にして重大事故が発生する危険性が常に存在しており、担当講師の指示に従うことは当然のこと、整理整頓や掃除などについても徹底したい。				
成 績 評 価 の 方 法	全て連携授業(有栗駒建業) 企業連携実習の評価70% 基本工具の習熟度や、仕口継手の加工、道具の手入れ状況等の試験を5段階評価で毎月行う 模擬家屋担当箇所の技術を学期毎に行う 平常点30%(出席状況、取組み姿勢、態度) 安全管理に重点を置いた評価(以前は1日毎に100点法で毎回行う)については平常点(出席率、取組み姿勢、作業態度)で行う、などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	建築大工技能科				
コ ー ス 名					
科 目 名	建築技能実習Ⅱ(企業連携科目)			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	8	総授業コマ数	304	単 位 数	16
担 当 教 員	高橋 渉 伊藤 功啓	実 務 経 験	工務店にて、在来木造建築物の大工工事を経験。現在は社長として工務店を経営する傍ら、NPO法人で大工塾を開催している。多くの建築物を工事した経験を活かし、実践的な教育を行う。知識や技能の指導と教育を行っている。		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・大工技術の基本である「道具」・「規矩術」・「工作法」を模擬家屋作成の実習を通して修得することを目的とする。 ・模擬家屋は木造2階建て切妻と寄棟の屋根、大壁造の内装で作成する。 ・実習を通して、木造建築物の構造、施工方法、構造関連法規を理解する。 ・実習を通して、高所作業に伴う安全な作業と足場解体撤去作業を理解し、作業中の安全について理解する。 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・玉掛け技能講習等を修了し、安全な作業方法を習得する。 ・木工手道具の刃研ぎや仕込みができるようになる。 ・規矩術を理解し、寄棟屋根の墨付けができるようになる。 ・電動道具を使用した加工ができるようになる。(丸のこ安全講習修了者のみ実施) ・建方の手順を理解し、高所での安全な作業が行えるようになる。 ・建築金物、ビス、釘等の仕様を理解し、構造耐力上安全な構造物の工作ができるようになる。 ・建具取付工事、断熱気密工事、大壁造の内装工事、壁装クロス工事、解体工事ができるようになる。 				
目 標 資 格	木建作業主任者				
前 提 知 識	建築技能実習Ⅰで修得した知識、技能				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	50	構造軸組(柱・梁・土台)の墨付け、刻み			
	2	高所作業の安全講習 (企業連携、(株)大和通商)			
	20	構造軸組(柱・梁・土台)の建て方			
	25	外部大工工事(間柱、筋違、サッシ、外部合板、防水シート、軒天仕上げ)			
	16	内部大工工事(天井、壁、断熱工事、造作工事)			
	15	内部仕上げ工事(窓、入り口枠、玄関框、フロア張り、壁、巾木、廻り縁仕上げ)			
	4	クロス張り講習 (企業連携、(有)栗駒建業)			
12	解体工事				
8	仮設足場の設置 (企業連携、フットゲート株式会社)				
計	152				
使 用 教 材	木工技術を学ぶⅠ、Ⅱ(市谷出版社)				
履 修 上 の 意 注	電動工具や木工機械は、一瞬にして重大事故が発生する危険性が常に存在しており、担当講師の指示に従うことは当然のこと、整理整頓や掃除などについても徹底したい。				
成 績 評 価 方 法	<p>全て連携授業((有)栗駒建業) 企業連携実習の評価70% 基本工具の習熟度や、仕口継手の加工、道具の手入れ状況等の試験を5段階評価で毎月行う 模擬家屋担当箇所の技術を学期毎に行う 平常点30%(出席状況、取組み姿勢、態度) 安全管理に重点を置いた評価(以前は1日毎に100点法で毎回行う)については平常点(出席率、取組姿勢、作業態度)で行う、などを中心に総合的に評価する</p>				

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	建築大工技能科				
コ ー ス 名					
科 目 名	建築基礎製図			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	武田 幸司	実 務 経 験			
目的 / 概要	建築実務の基礎として建築図面の理解と作図方法を習得します。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 製図用具の扱い方、線、文字、JIS規格等を学び、基礎製図の基本技術を習得する。 建築設計図の種類・描き方の基礎を学び、作図技術を習得する。 				
目 標 資 格	二級建築士・木造建築士				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	8	基本製図の演習			
	18	木造住宅の平面図作成			
	12	木造住宅の立面図作成			
	12	木造住宅の断面図作成			
	10	木造住宅の伏図・軸組図作成			
	12	木造住宅の矩計図作成			
	4	演習			
計	76				
使 用 教 材	初めての建築製図(学芸出版社)				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> 建築図面の理解と現場で使う板図の理解を習得できるようにする 				
成 績 評 価 の 方 法	平常点30%(出席状況、取組み姿勢、態度) 実習点70%(提出点40%+課題点60%) 提出点:課題の完成提出及び途中提出の状況 課題点:課題の完成レベルと制作の工夫 などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	建築大工技能科				
コ ー ス 名					
科 目 名	建築CAD製図			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	前期2、後期4	総授業コマ数	114	単 位 数	6
担 当 教 員	柏 秀 幸	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	CADの操作方法を学び、設計図の作成方法を修得します。また、プレゼンテーション方法を学び、2年間で作成したものをパネルやスライドにまとめ発表します。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・一般図のトレースを通し、CADの基本操作の修得と、建築製図法を理解する。 ・建築物の写真撮影法と、コンピュータ上での写真加工方法を習得する。 ・習得した技術を駆使し、住宅などの建築作品を調査研究し、他の科目と連携しながら、図面、写真を作成し、プレゼンテーションを行う。 				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	建築基礎製図で学んだ建築設計図の基礎知識コンピュータ基礎で学んだPCの基礎知識				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	18	CADの基本操作			
	32	木造住宅の平面図作成			
	8	木造住宅の断面図作成			
	8	木造住宅の立面図作成			
	8	建築物の写真撮影、写真加工			
	18	プレゼンテーションボードの作成			
	18	スライドの作成と発表			
	4	演習			
計	114				
使 用 教 材	オリジナル教材				
履 修 上 の 意 注	・建築図面をCADで最低限作図できるようにする				
成 績 評 価 方 法	<p>平常点30% (出席状況、取組み姿勢、態度) 実習点70% (提出点40%+課題点60%) 提出点: 課題の完成提出及び途中提出の状況 課題点: 課題の完成レベルと制作の工夫 などを中心に総合的に評価する</p>				

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	建築大工技能科				
コ ー ス 名					
科 目 名	建築設計製図			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	前期3、後期2	総授業コマ数	95	単 位 数	5
担 当 教 員	武田 幸司	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	木造2階建の専用住宅の設計課題を通して、住宅の設計手法と設計図の作成手法を、住宅計画の理論と連動しながら実践的に修得します。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・家族構成や要求諸室、敷地条件等の検討事項を理解し、設計条件の整理方法を習得する。 ・エスキースの手順と検討事項を理解し、プランニング方法を習得する。 ・木造在来工法の構造を理解し、耐力壁、構造部材の断面形状の決定方法を習得する。 ・関係法令を理解し、法規チェック方法を習得する。 ・材料や屋根形状のバリエーションを理解し、魅力的な外部空間の設計手法を習得する。 ・計画した住宅の設計図を作成する。 				
目 標 資 格	二級建築士・木造建築士				
前 提 知 識	建築計画、建築基礎製図の履修				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	5	課題条件の検討とエスキース手順			
	9	ゾーニングとエスキース			
	9	構造と法規、立面の検討			
	9	外観と外構の検討			
	22	配置平面図作成			
	6	立面図作成			
	6	断面図作成			
	10	伏図・軸組図作成			
	15	矩計図作成			
計	4	演習			
	95				
使 用 教 材	初めての建築製図(学芸出版社)				
履 修 上 の 意 注	・技能実習で実際に建築するものと、建築図面の整合性が取れるようになる				
成 績 評 価 方 法	<p>平常点30%(出席状況、取組み姿勢、態度) 実習点70%(提出点40%+課題点60%) 提出点:課題の完成提出及び途中提出の状況 課題点:課題の完成レベルと制作の工夫 などを中心に総合的に評価する</p>				

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	建築大工技能科				
コ ー ス 名					
科 目 名	建築計画			科 目 分 類	独自 <input checked="" type="checkbox"/> 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	小野寺 忠則 菅原 麻衣子	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	建築計画の基礎となる人や物の寸法や行動、住生活様式を学びます。また、伝統的建造物の歴史から木造の特徴を理解します。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・建築の表現：設計のプロセス、各種図面、表現の理解。 ・室と場面：人体寸法～行為～単位空間の理解、各種場面における計画要素の理解。 ・日本建築史：現在のわが国の生活様式と意匠の原点の理解。 ・西洋建築史：わが国の建築に影響を与えた諸外国の建築の歴史から近代建築を理解する。 ・歴史をとおして住生活と住形式を理解する。 ・歴史と習慣を交え、その変遷にいたる経緯を理解し、間取りの取り方を習得する。 ・換気・日照・採光の必要性について理解し、住環境の重要性を学ぶ。 ・余条件の整理の仕方からエスキースの進め方を理解し、住宅計画の進め方を習得する。 ・独立住宅、集合住宅の計画例を参考に、具体的な計画手法を学ぶ。 				
目 標 資 格	二級建築士				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	8	建築の表現			
	8	室と場面			
	8	日本建築史			
	8	西洋建築史			
	7	住生活と住形式			
	7	間取りの取り方			
	3	住環境－換気・日照・採光			
	7	住宅計画の進め方			
	4	独立住宅の計画			
	4	集合住宅の計画			
計	76				
使 用 教 材	コンパクト建築設計資料集成(丸善) コンパクト版建築史【日本・西洋】(彰国社) 住宅の計画学入門(鹿島出版会)				
履 修 上 の 意 注	・コンパクト資料集成を常備し作品の研究・調査に役立て、授業での課題等にも役立てられるようにする				
成 績 評 価 の 方 法	平常点30%(出席状況、取組み姿勢、態度) 考査点50%(半期期末考査、場合により中間考査も実施) 課題点20%(学習項目毎の小テスト、課題レポート他) などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	建築大工技能科				
コ ー ス 名					
科 目 名	住宅計画			科 目 分 類	独自 <input checked="" type="checkbox"/> 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 / 演習
コマ数 / 週	前期1、後期2	総授業コマ数	57	単 位 数	3
担 当 教 員	佐藤 有希	実 務 経 験			
目的 / 概要	住宅計画の留意点を理解し、計画・構造・法規・意匠と調和のとれた設計手法を学びます。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 配置、平面計画においては動線計画、ゾーニング計画の手法を理解する。 断面、立面計画では標準的な高さ寸法の根拠を理解し、全体として構成する手法を習得する。 構造計画では、在来木造、鉄筋コンクリート造の構造特性を理解し、計画上の制約を習得する。 設備計画では快適な住環境を実現する住宅設備の概要を理解する。 住宅計画における法規上の留意点を理解する。 				
目 標 資 格	二級建築士				
前 提 知 識	建築計画 I、建築法規の履修の基本事項				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	9	配置計画			
	15	平面計画			
	9	断面計画			
	6	立面計画			
	5	構造計画			
	3	設備計画			
	3	法規上の留意点			
	6	演習			
	1	考査			
計	57				
使 用 教 材	住宅の計画学入門(鹿島出版会)				
履 修 上 の 意 注	・建築の設計者の意図やディテールを理解し、住宅建築に役立てられるようにする				
成 績 評 価 の 方 法	平常点30%(出席状況、取組み姿勢、態度) 考査点50%(半期期末考査、場合により中間考査も実施) 課題点20%(学習項目毎の小テスト、課題レポート他) などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	建築大工技能科				
コ ー ス 名					
科 目 名	建築一般構造			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	伊藤 功啓	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	木造建築物の構造・造作の詳細と、ビルに使われる鉄筋コンクリート造・鉄骨造の概略を学びます。また、構造力学の基礎として材料に加わる力を理解します。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・建築構造の概要→構法変遷、構造分類、建築上の留意点 ・木構造-----→特徴と形式、木材、軸組構法、枠組壁構法、大断面集成材構法 ・鉄筋コンクリート構造→構造の原理、特徴と形式、配筋の基本、基礎、地盤、構造計画、柱、壁、梁、床スラブ階段 ・鋼構造-----→特徴と形式、鋼材、接合、骨組、耐火被覆、軽鋼構造、鋼管構造 ・その他の構造---→鉄骨鉄筋コンクリート構造他の構造 ・仕上の構造-----→防水、外部仕上げ、内部仕上げ、開口部 				
目 標 資 格	二級建築士、2級施工管理技士				
前 提 知 識					
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	10	建築構造の概要			
	20	木構造			
	20	鉄筋コンクリート構造			
	10	鋼構造			
	6	その他の構造と仕上の構造			
	6	建築物への外力と荷重			
	2	演習			
	2	考査			
計	76				
使 用 教 材	基礎シリーズ 最新建築構造入門 (実教出版) ビジュアルハンドブック 必携建築資料(日本建築学会)				
履 修 上 の 意 注	・実際の模擬住宅と試験問題に必要な基礎知識を理解する				
成 績 評 価 方 法	平常点30%(出席状況、取組み姿勢、態度) 考査点50%(半期期末考査、場合により中間考査も実施) 課題点20%(レポート 小テスト 配布資料及びノートチェック 夏休建築中木造住宅取材課題) などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	建築大工技能科				
コ ー ス 名					
科 目 名	建築材料			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	小野寺 忠則	実 務 経 験			
目的 / 概要	木材を始めとする構造材料と各種仕上げ材料のそれぞれの種類、性質、使用方法について学びます。				
到達目標	・建築物に用いられる様々な建築材料を建築の骨組に用いられる構造材料と、外装・内装に用いられる仕上材料などに大別して、各種材料の特性や使用方法などについて理解する。				
目標資格	二級建築士、2級施工管理技士				
前提知識					
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	8	建築材料の概要			
	12	構造材料（木材、コンクリート、鋼材）			
	12	仕上材料（ステンレス鋼、アルミニウム合金材、タイル・れんが、ガラス・石、 左官・ボード・シート材料、プラスチック・塗料・接着剤、防水材料、建具、その他）			
	4	演習			
	2	考查			
計	38				
使用教材	ベーシック 建築材料(彰国社) ビジュアルハンドブック 必携建築資料(日本建築学会)				
履 修 上 の 意 注	・実際に使用する材料と試験問題に必要な基礎知識を習得する				
成 績 評 価 の 方 法	平常点30%(出席状況、取組み姿勢、態度) 考查点50%(半期期末考查、場合により中間考查も実施) 課題点20%(学習項目毎の小テスト、課題レポート他) などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	建築大工技能科				
コ ー ス 名					
科 目 名	建築生産			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	19	単 位 数	1
担 当 教 員	伊藤 功啓	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	木造建築物の施工方法と、安全衛生に関する知識を学びます。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・建築施工管理の意義 建築生産・施工方式・建築業務等に関して基礎を学ぶ ・施工管理の種類 工程・品質・安全等施工管理に必要な基礎を学ぶ ・各施工方法 各施工の順序を学びながら、施工方法について学ぶ 				
目 標 資 格	二級建築士、2級施工管理技士				
前 提 知 識	建築一般構造の履修の基本事項				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	5	施工計画、施工管理、安全衛生管理、工事準備、仮設工事			
	2	鉄筋工事、型枠工事、コンクリート工事			
	6	木工事			
	3	内外装工事(防水、左官、建具、ガラス、内装、設備)			
	2	演習			
	1	考査			
計	19				
使 用 教 材	〈第二版〉専門士課程 建築施工(学芸出版社)				
履 修 上 の 意 注	・建築現場で必要な施工管理や工程・品質・安全等施工管理を理解する				
成 績 評 価 の 方 法	<p>平常点30%(出席状況、取組み姿勢、態度) 考査点50%(半期期末考査、場合により中間考査も実施) 課題点20%(学習項目毎の小テスト、課題レポート他) などを中心に総合的に評価する。</p>				

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	建築大工技能科					
コ ー ス 名						
科 目 名	建築法規			科 目 分 類	独自 / 共通	
履 修 年 次	2	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習	
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	19	単 位 数	1	
担 当 教 員	伊藤 功啓	実 務 経 験				
目的 / 概要	建築基準法について、法律の考え方や基準の内容を理解し、基準に適合する設計方法を学びます。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・用語の定義 建築用語として意味を考えながら法律に馴染む ・集団規定について 建築が都市環境の一要素であることを理解し用途、形態、規模に関して学ぶ ・単体規定について 個々の建物に必要な構造、安全、避難、設備等に関して学ぶ 					
目標資格	二級建築士、2級施工管理技士					
前提知識						
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容				
		1	法令概論 (建築基準法と関係法令)			
		5	総則 (目的、用語の定義、設計と監理、手続き)			
		5	単体規定 (構造耐力、耐火防火、室内環境、避難)			
		5	集団規定 (道路と敷地、用途制限、容積・建ぺい率、高さ制限、日影規制、防火地域)			
		2	演習			
		1	審査			
計		19				
使 用 教 材	超入門建築基準法(市ヶ谷出版社) 基本建築基準法関係法令集 (建築資料研究社)					
履 修 上 の 意 注	・建築基準法の法令集の使い方に慣れまた引き方に慣れ「集団規定」「単体規定」「関係法令」に関してりかいする					
成 績 評 価 の 方 法	平常点30% (出席状況、取組み姿勢、態度) 審査点50% (半期期末審査、場合により中間審査も実施) 課題点20% (学習項目毎の小テスト、課題レポート他) などを中心に総合的に評価する。					

シラバス

作成日：2019年 4月 1日

学 科 名	建築大工技能科				
コ ー ス 名					
科 目 名	コンピュータ基礎			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	前期2 後期2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	柏 秀幸 丸山 千恵	実 務 経 験	1級建築士として建築事務所の豊富な経験を活かし、実践的なCAD教育を行っている。		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやメール、LANをはじめとするネットワークの基本的な知識を身につける。 ・情報化社会における問題点や法整備、モラル等について基本的な知識を身につける。 ・iPadを利用したプレゼンテーション技術を身につける。 ・Microsoft Office Excelの修得。 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化社会におけるマナーや法律を理解し、正しく運用することができるようになること。 ・ネット社会における影の部分を理解し、何が正しく何が正しくないかを判断できるようになること。 ・ネットワークに関する知識を深め、家庭や職場からインターネットに接続できるようになること。 ・スライドショーの作成とクラウドによるファイル操作ができるようになる。 ・Microsoft Office Excelによる集計表の作成。 				
目 標 資 格					
前 提 知 識	・高等学校の情報科目履修程度の知識				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	19	・情報リテラシーと情報検索や各種アプリケーションの実践			
	19	・iPadを用いたプレゼンテーション			
	38	・Microsoft Office Excel			
計	76				
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Office Specialist攻略問題集 Microsoft Excel 2010 ・講義時の配布資料等 				
履 修 上 の 意 注	・今やコンピュータやネットワークの知識は、社会に出ていく上で必須となってきた。積極的に身につけるように心掛けること。				
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験:40% ・課題内容・提出状況:40% ・平常点:20% 等により総合的に評価する。				